

シルバーエコーささやま30周年感謝コンサート

篠山にゆかりのある

ヴァイオリニスト

久合田 緑さん

&

ピアニスト

松田 康子さん

を迎えて

歌のついでに

シルバーエコーささやま

四季の歌

川岸のベンチで

真っ赤な太陽

燈燦爛

川の流れのように

久合田 緑&松田康子 デュオ

W.A.モーツァルト

ピアノとヴァイオリンのためのソナタ K.304 ホ短調

F.クライスラー

ベートーヴェンの主題によるロンディーノ

美しきロスマリン(ヴァイオリン)

F.シューベルト

即興曲(ピアノ)

L.v.ベートーヴェン

ピアノとヴァイオリンのためのソナタ10番 op.96 ト長調

平成27年 **11月15** 日(日) 開場 13:30 開演 14:00

四季の森生涯学習センター東館

※お越しくださる方は、必ず10月中にチーフの佐藤美江子（電話 090-7551-4474）までご連絡ください。
※花束・お祝い等は、固くご辞退申し上げます。

Profile



久合田 緑 *Violin*

Michori Kugata

6歳からヴァイオリンを始め、毎日学生音楽コンクール大阪大会小学校・中学校の部で1位を受賞する。東京芸術大学付属高校に進んだ後、芸大在学中にロックフェラー3世財団などの奨学金を得て渡米する。ジュリアード音楽院、インディアナ大学音楽学部で学び、Performer's Certificateを得てインディアナ大学を卒業し帰国、日本テレマンアンサンブルのソリストとして活動した後、久合田緑弦楽四重奏団を15年間主宰し東京で年4回の定期演奏会を行う。1995年より久保陽子、香沼津二、岩崎流各氏とともにJapan String Quartetを立ち上げ、コンサートとマスタークラスなどの活動を続けている。また、ソリストとしても活動を続けている。

1992年と1994年には国際交流基金の音楽使節として中南米4カ国、中東、フランスでコンサートをを行う。最近では2013年にドイツのフォルクヴァンク三人に招かれ、コンサートとマスタークラスを行う。

これまでに相愛大学教授、東京芸大講師、京都市立芸術大学教授として、2010年からは大阪音楽大学教授、華頂女子高等学校音楽科長補佐、同講師として後進の指導を続けている。京都市立芸術大学名誉教授。

また、これまでに日本音楽コンクール、日本学生音楽コンクール、松方ホール音楽賞などの審査員をつとめる。

東儀郁二、鏡見三郎、服部豊子、I.ガラミアン、J.ゼンゴールド、F.グッリ、I.スターンの各氏に師事。



松田 康子 *Piano*

Yasuko Matsuda

京都市立堀川高校音楽科から東京芸術大学卒業、同大学大学院修了。1973年渡独、国家芸術試験に特別優秀評価で合格。1978年第二回ヴィットーリオ・ガイ室内音楽コンクール入賞。1984年セルジュ・チェリビダッケ指揮ミュンヘン・フィルと共演をきっかけに急激に活動を開始する。これまでに共演したオーケストラの一部の名前を挙げると、バフハコレギウム・ミュンヘン、北ドイツ放送オーケストラ、中央ドイツ放送オーケストラ、ザルツブルク・モーツァルテウムオーケストラ、ウィーンフィルハーモニー、パドバ・ベニス室内管弦楽団等。指揮者では朝比奈隆、小泉裕之、若杉弘、沼尻光典、レオポルド・ハーガー、ユベール・スダーン、カール・オーストライヒャー、ペーター・マーク、デウイッド・シヤローン、ユッカ・ベッカ・サラステ等。

第49回、第53回ブゾーニ国際ピアノコンクールをはじめ、数々の国際コンクールの審査員を務める。

2006年ミュンヘンでのモーツァルト生誕250年祭記念演奏会に出演。2007年リンデンブルグ音楽祭でヴァイオリンデュオを行う。2011年ゲーティンステイテュートの招きでバングラデシュ、インドで演奏、公開レッスンをを行う。

2005年秋から4年間京都市立芸術大学で教鞭をとり、後進の指導にあたる。京都府教育委員会から「教育功労賞」受賞。

2009年から再びミュンヘン・ホッホシューレ（音楽大学）教授として教鞭をとる。現在ベルリンで定期的にソロ、チェロとデュオ、バイオリンとデュオを開催。

久合田&松田デュオ

松田康子は京都の堀川高校から、久合田緑は東京芸大付属高校から、東京芸大に進んだ同級生である。と言っても久合田は芸大を3年生で中退して渡米したので、芸大のキャンパスで共に過ごしたのは2年間ほどでしかない。松田は芸大大学院を終えてから渡独し、現在に至るまでの滞在となる。長い間接点のなかったふたりが再び一緒になるのは、久合田が既に教鞭を取っていた京都市立芸大で松田が教える事になった2005年からの4年間であった。同じ年のふたりが共に寮年を待たずして早期退任し再び接点が無くなったように思えたのだが、その後大阪警大で教えるようになった久合田が松田を音大に招くようになりまた出会うことになる。

2013年春、ドイツ・エッセンから列車でミュンヘン駅に到着した久合田を松田はフラットホームで出迎えた。その日から数日間ふたりは初めて同じ屋根の下で過ごし、朝から晩までお喋りと合奏で親交を温めることになる。18歳で知り合ってから初めて、本当の意味での友となったのである。

実はふたりには最近になって初めてわかった接点があったのである。ひとつは小学6年生の時に朝比奈隆先生指揮のもと大阪フィルハーモニーのコンサートでジュニア・ソリストとして同じステージで演奏していた事。もう一つはお互いの先祖が丹波篠山城落士で、古地図で見ると10軒くらいしか離れていないご近所だった事。大阪フィルの時に自分以外のおかっぱの女の子が演奏していた事はお互いにおぼろげながら記憶の片隅にあったけれど、ご先祖祭の話を知った時には本当にびっくりしてしまった。

そんなふたりが昨年4月に大阪音大でのコンサートで初めて共演したことをきっかけにデュオを組むことになった。人生のスタート時期に近くに居たふたりが長い時間を経て今再び近づき、共に音楽を奏で始めたという事に人生の幸せと面白さを感じてしまっている。